

2016年度 日本文化人類学会
第6回理事会 議事録

日時：2017年2月11日（土）14時～17時30分

会場：東京大学 東洋文化研究所 第一会議室

<出席者>松田、綾部、伊藤、川田、栗本、桑山、慶田、湖中、高倉、棚橋、名和、速水、真島、
三尾、森山、箭内

<委任状提出>宇田川、岡田、小田、佐々木、白川、田中、中谷

〔承認事項〕

1. 2016年度第5回理事会議事録
2. 新入会員（1名）につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。

〔報告事項〕

1. 会長報告
 - ・2020年からの社会科教科書カリキュラムの改編に伴う教科書への人類学的な知見の導入のお願いについて、後ほど報告を行う予定であることを説明。
2. 庶務理事報告
 - ・2016年度事業計画に基づき、文部科学省初等中等教育局長ならびに同局教職員課長宛に、公民免許状取得上履修を要する専門科目への文化人類学の追加、地理歴史免許状取得上履修を要する専門科目への民族誌の追加に関する要望書を提出したことを報告。
 - ・日本学術振興会賞推薦依頼について、本年も推薦依頼が届いた場合、例年通りの手順で理事・評議員への推挙依頼を行った後、教育委員会と総務会で選考を進めることを確認。
3. 会計理事報告
 - ・『文化人類学』81巻3号に2017年度からの会費体系改定に関する文書を挟み込んだこと、81巻4号にも会費改定に関する会長文書を挟み込む予定であることを報告。
4. 広報理事報告
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき7件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。うち規定外の2件については総務会で検討の上配信を行ったことを報告、事後承認された。
 - ・学会ホームページのQ&Aコーナーへ届いた質問に対し回答を行ったことを報告。
5. 各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：81巻3号の刊行、81巻4号の進捗状況を報告。前回理事会で承認された学会誌への広告掲載について法人化との関係も含め進め方を検討中であることを報告。
 - ・JRCA編集委員会：Vol. 17-1の刊行とVol. 17-2、Vol. 18の進捗状況を報告。
 - ・「国際情報発信強化」特別委員会：2017年度国際シンポジウムは、計画では2名のゲストスピーカーを招聘する予定であること、会場は東京以外も含め検討中であることを報告。
 - ・国際化グローバル化対応委員会：2018年9月に九州大で開催されるWSSF（世界社会科学フォーラム）について、IUAESより日本文化人類学会でパネルを出してほしいとの依頼があったこと、これについて太田好信会員（九州大）へ招待パネルの組織及び応募を依頼したことを報告。
 - ・課題研究懇談会担当委員会：2017年度には新規募集を行う予定であることを報告。
 - ・研究発表査読委員会：第51回大会第3回サーキュラーの公開をもって報告とする。
 - ・地区研究懇談会：各地区の研究会開催状況、開催予定を報告。

〔審議事項〕

1. J-STAGE 移行関係案件
 - ・名和理事より、CiNiiからJ-STAGEへのデータの移行が行われつつあること、現在、公開に向けて移行されたデータを修正中であることが報告された。また、J-STAGEへの学会誌登載作業について、XML方式で新規登載を試みたところ問題が生じたため、当面Web登載形式を基本として作業を行うことが報告された。
 - ・今後の予定については、前期理事会の決定通り4月にパスワードを配布し、調整・確認の完了した号から順次公開していくことが報告された。また、新年度より登載作業をアルバイトに委託すること、JRCAにもJ-STAGE担当をおく体制とするなど、他の委員会も含めJ-STAGE担当委員を増員して関連業務に対応することが説明され、これらの方向で進めることが承認された。
2. WCAA ホームページのフォーラム管理担当について
 - ・松田会長より、WCAAのホームページに非英語圏のフォーラムが開設されており、日本語のものを2017年4月～10月の半年間、本学会に担当してほしいとの依頼があったことが報告され、審議の結果、承

- 認された。
3. 学会誌デザイン料について
 - ・綾部理事より、前期理事会時には年間の表紙デザイン料が6~7万円程度かかるとの説明がされていたが、今期実際にデザインを行ったところ、毎号の作業量もあるため先方から各号3万円弱の提示があったことが報告された。前期理事会時の説明より増額となるが、デザイン変更により1頁あたりのコストが下がっていることも考え合わせ、審議の結果、各号3万円弱のデザイン料を支払うことが承認された。
 4. 『文化人類学』編集委員会より
 - ・真島理事より、『文化人類学』新投稿フォーム(案)について説明があり、審議の結果、指摘のあった箇所については委員会内で文言調整することを確認の上、承認された。
 - ・真島理事より、『文化人類学』新査読規程(案)について、これまで数度の理事会審議と委員会開催を経て慎重に検討を行ってきたこと、今回の改定案は、世界的な動向もみつつ、学問的な価値そのものを問うような規定とするよう査読の意味や学会誌の位置づけ、現行の規定のはらむ問題も鑑みて行われる提案であることが説明された。審議の結果、規定案の大筋が承認され、文言等については次回継続審議とすることとした。
 5. 研究大会バックアップ体制について
 - ・松田会長より、研究大会開催校の負担を軽減するため、理事会・学会の分担の可能性も含めて大会運営のあり方を考え直す必要があることについて説明がなされた。意見交換の結果、理事会で分担するという点に関しては研究大会運営検討委員会と総務会で検討を行うこととし、その方針で進めることが承認された。
 6. 法人化関連案件(パブコメ対応等)
 - ・会員に向けたパブリックコメント促進呼びかけの会長文書について、締め切りを3月15日とし、学会HP及びJASCA-INFOで配信することが承認された。
 - ・三尾理事より、法人化へ向けた今後のスケジュールについて説明があり、確認を行った。4月開催の理事会では、パブリックコメントを受けて総会へかける定款案の提示を行う必要があること、それに伴い会則及び評議員選挙規則の改定が必要であることを確認した。
 7. 学会会計1月末時点での暫定決算
 - ・綾部理事より、資料に基づき2016年度決算(1月末時点暫定版)・2017年度予算(案)について説明があり、年度内の支出予定や次年度予算要求があれば会計理事に連絡することとした。
 8. 2017年度事業計画案素案検討
 - ・川田理事より、資料に基づき2016年度事業報告書・2017年度事業計画書(案)について説明があり、変更点があればメールで庶務理事に連絡することとした。
 9. 学会賞(投票)
 - ・学会賞選考委員会による第11回学会賞の選考経緯と選考結果の報告がなされ、それに関する質疑応答ならびに投票の結果、原案のとおり承認された。授賞理由書は委員長と総務会で作成し、次回理事会で審議することとした。
 - ・第11回学会賞及び前回理事会で承認された第11回奨励賞の選考結果については、例年通り、JASCA-INFO及び学会HPで周知を行うこととした。
 10. 名誉会員の推戴について
 - ・2017年度に日本文化人類学会名誉会員内規第二章第二条の条件を満たす名誉会員候補資格者2名を名誉会員候補者として推薦することが承認された。今後推薦受諾の意向確認を行った上で、次回の総会に諮ることとした。
 - ・同内規第二章第二条第二項による理事会からの提案を募った。第二項による候補者の提案については、前期理事会において、各年度の年度末の理事会の一つ前の理事会で照会を行うと決定されたことが説明された。今回は年度最後の理事会での照会となったため、理事会後にMLを用いて提案を募ることが承認された。なお、同項は名誉会員の積極的な推薦を呼びかけているものではないため、推薦フォームは作成しないことになっていることを確認した。
 11. 課題研究懇談会の継続申請
 - ・前回理事会で報告された1件の継続申請について、委員会の検討結果に基づき審議の結果、2017年度の継続が承認された。
 12. 東日本大震災の被災会員に対する会費徴収特例措置について
 - ・「東日本大震災の被災会員に対する2016年度会費徴収特例措置」の申請1件について、総務会の事前検討に基づき審議の結果、承認された。
 13. その他
 - ・次回以降(次年度)の理事会開催日程について、調整の上、連絡することとした。

以上